

新規・継続等	新規	分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号	4	事業名	山地治山(林地荒廃防止)							
市町村名	上田市		ふりがな 箇所名	おおのくぼ 大久保			事業年度 (完了年度は見込み)	年度～		年度					
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)		谷止工1個、山腹工0.02ha(土留工1個、筋工、伏工他)				H22年度末事業進捗率		0%						
	H23年度以降残実施内容		同上				本工事費等ベース		0%						
	H23年度実施内容		-				用地補償費ベース		-%						
	年度		全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残				
	事業費計(千円)		32,700		0		0		0		32,700				
財源内訳	国庫支出金		15,000		0		0		0		15,000				
	その他														
	県債		15,930		0		0		0		15,930				
	一般財源		1,770		0		0		0		1,770				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課						
								ランク	評点	ランク	評点				
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上			1～9戸			B	3		3			
		保全対象公共施設	2箇所以上			1箇所				5		5			
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設			一般施設				0		B		0	
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上			保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり				2		B		2	
		小計								10		B		10	
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上			災害履歴地			A	5		A		5	
		交通遮断による地域経済などへの影響	大			中				5		A		5	
		防災計画上の位置づけ	あり			なし				5		A		5	
		小計								15		A		15	
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上			B/C1.0以上2.0未満			A	10		A		10	
		早期発現度	3年未満			3年以上5年未満				7		A		7	
		流域の総合調整	あり			なし				0		A		0	
		小計								17		A		17	
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満			50m以上200m未満			B	7		B		7	
		地形、地質の状況	火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形			火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯				2		B		2	
		平均床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)			5°～10°未満(20～30°未満)				3		B		3	
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし			あり(概ね満砂)				5		B		5	
		危険地区危険度	Aランク			Bランク				0		B		0	
小計								17		B		17			
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い			市町村要望有り			B	7		B		7		
	事業情報の共有	関係者以外にも周知			関係者中心に周知				0		B		0		
	住民参加の状況	住民が直接参加			住民市町村意見を反映				3		B		3		
	小計								10		B		10		
費用対効果(B/C)		8.43			評価の合計			B	69		B	69			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成22年8月2日発生豪雨災において、上信越自動車道上り線上部の山腹が崩壊し、また上部渓流からの土砂流出もあった。上信越自動車道は日々多くの通行が有ることから次期降雨等により二次災害の恐れがあるため、地元からも復旧を要望されている。また、谷止工施工地下流には古くからの大久保鉱泉源がある事から地域内外の利用も多く、対策工の設置についても要望が強い。													
	地域からの要望経緯	平成22年8月24日に地元自治会からの要望があった。													
	事業説明等の経緯	事業採択後、地元・関係者への説明会を予定。													
	環境・景観への配慮項目	特になし。													
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。													
	特記事項	特になし。													
地域の合意形成		全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他					
部意見	山腹崩壊地の復旧及び渓流への対策工の必要性はあるものの、拡大崩壊の危険性は比較的低い。高速道路用地に跨る荒廃箇所であり、道路管理者との調整を進め、計画熟度を深めたうえでの事業実施が必要である。					政策評価課意見	重要性は認められる。								